別海町文化財保存活用地域計画
【 概要版 】

計画作成の背景と目的、計画期間

別海町には史跡旧奥行臼駅(おくゆきうす)逓所や天然記念物西別湿原ヤチカンバ群落など、町の歴史と環境を物語る貴重な文化財が多く残され、先人たちが守り、今日まで受け継いできました。

しかし、人口減少や少子高齢社会の進行、ライフスタイルの多様化など、地域のつながりが希薄化する中で、今後そうした文化財をどのように守り、継承していくかが大きな課題になっています。

本町では、文化財を活かしたまちづくりの取り組みをさらに進めるため、文化財保護法第 183 条の3に基づき、町の歴史文化の保存・活用に関するマスタープランであり、アクションプランとなる「 別海町文化財保存活用地域計画 」(以下、「 地域計画 」) を作成することとしました。

地域計画では、町民に文化財の保存・活用を通じて町の魅力を再認識してもらい、誇りを持って住み続けられるまちづくりを目指します。また、多種多様な文化財を顕在化させるための環境整備等を推進し、町の歴史文化を内外に発信する拠点として活用することで、交流人口を増やし、地域の活性化につなげます。

計画期間は令和 6(2024) 年度から令和 15(2033) 年度までの 10 か年とします。

「 別海のおたから 」の定義

本計画では指定等の有無にかかわらず、別海町の歴史・文化・自然を含めた全ての文化財を「 別海のおたから 」と命名し、町独自の呼称として用います。

「 別海のおたから 」の概要

■指定等文化財

別海町の指定文化財は、国2件・道1件・町 16 件の計 19 件あり、類型別に見ると有形文化財が道1件・町5件、記念物が国2件・町 11 件で、無形文化財と民俗文化財の指定はなく、選定文化財の文化的景観と伝統的建造物群、国の登録文化財もまだありません。なお、埋蔵文化財包蔵地は 88 か所が確認され、竪穴住居跡群の多いことが特徴的です。文化財の保存技術については、まだ認定されていません。

類型・種別 ＼ 区分		国		道	町	合計
		指定・選定	登録	指定	指定	
有形文化財	建造物	0	0	1	3	4
	美術工芸品	0	0	0	2	2
無形文化財	演劇、音楽、工芸技術	0	0	0	0	0
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	0	0	0	0
	無形の民俗文化財	0	0	0	0	0
記念物	史跡	1	0	0	0	1
	名勝	0	0	0	0	0
	天然記念物	1	0	0	11	12
文化的景観		0	−	−	−	0
伝統的建造物群		0	−	−	−	0
合計		2	0	1	16	19

（１）有形文化財

道・町指定の建造物は4件で、このうち3件が奥行地区にあり、北海道開拓の歴史や当時の駅逓の様子がよくわかる貴重な文化財です。残りの1件は町指定の旧柏野尋常小学校奉安殿で、昭和 12(1937) 年に建設されたものです。

町指定の美術工芸品は、加賀家文書と厨子入南矢臼別馬頭観世音菩薩坐像の2件となっています。加賀家文書は、江戸時代の末期に野付通行屋の通訳などとして活躍した加賀伝蔵が残した約 1,000 点にのぼる記録で、当時のアイヌとの関係や、この地方の出来事・風俗等が絵を交えて克明に描かれており、別海町のみならず根室管内や北海道近世史の空白を埋める重要な資料となっています。

（２）記念物

国・町指定の記念物は 13 件あり、史跡の旧奥行臼駅逓所と天然記念物の西別湿原ヤチカンバ群落を除く 11 件が町指定の天然記念物で、野付半島沖マンモスゾウ化石群以外の 10 件は、全て植物です。西別湿原ヤチカンバ群落は氷河期の遺存種であり、町指定の野付の千島桜・役場支所の柏・オクユキウスの大楢などは、この地域における自然環境の変遷と自然の豊かさを物語っています。

■未指定文化財

これまでに実施した調査等で 870 件の未指定文化財を把握しています。これを国が定めた文化財の6類型に当てはめると、有形文化財が 42 件、無形文化財が1件、民俗文化財が 212 件、記念物が 513 件、文化的景観が5件、伝統的建造物群が1件となります。

類型外の埋蔵文化財は 88 件、文化財の保存技術は0件であり、その他（ 地名・伝承など ）に該当するものは8件となっています。

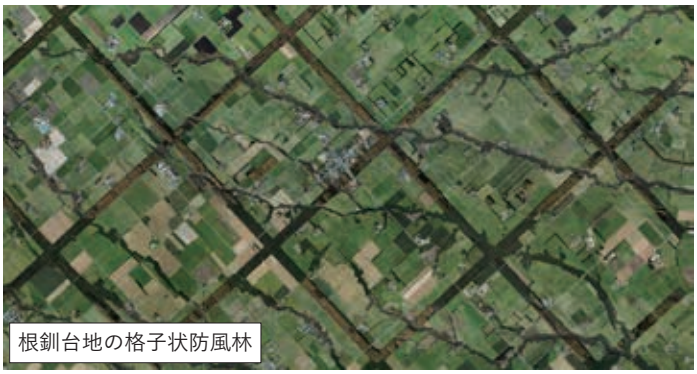
有形文化財		無形文化財	民俗文化財		記念物			文化的景観	伝統的建造物群	埋蔵文化財	文化財の保存技術	その他（地名・伝承など）	合計
建造物	美術工芸品	演劇、音楽、工芸美術	有形の民俗文化財	無形の民俗文化財	遺跡	名勝地	動物、植物、地質鉱物						
27	15	1	205	7	500	10	3	5	1	88	0	8	870

風蓮湖の氷下待ち網漁

新酪農村展望台から見た風景

「野付湾の打瀬網漁（野付半島と打瀬舟）」の様子

旧開拓使別海缶詰所


根釧台地の格子状防風林

旧奥行臼駅逓所で披露された別海音頭

日本遺産『「 鮭の聖地 」の物語～根室海峡一万年の道程～』

日本遺産は、地域独自のストーリーに沿った文化財を群として把握し、一体的な整備・活用を図り、まちづくりに活かそうとするもので、近隣の標津町・根室市・羅臼町とともに申請した『「 鮭の聖地」の物語～根室海峡一万年の道程～』が、令和2(2020) 年6月に認定されました

ストーリーの概要

北海道最東の海、根室海峡。この地では遥か一万年の昔から、絶えず人々の暮らしが続いてきました。その支えとなったのは、ふるさとの川で生まれ、オホーツク海を往来する鮭です。毎年秋に繰り返される鮭の遡上という自然の摂理の下、当地では「人」と「自然」、「文化」と「文化」の共生と衝突に伴う数々の物語が生まれ、「水」・「馬」・「鉄」・「車」という「路（みち）」が紡がれてきました。一万年に及ぶ時の流れの中で、鮭に笑い、鮭に泣いた根室海峡沿岸。ここはいまも、人と自然、あらゆるものが鮭とつながる「鮭の聖地」です。

鮭とばを干す風景

鮭飯寿司の文化

旧国鉄別海駅～厚床駅間線路跡

別海町の歴史文化の特性

歴史文化とは、地域に固有の風土の下、先人によって生み育まれ、時には変容しながら現代まで伝えられてきた知恵・経験・活動等の成果及びそれが存在する環境を総体的に把握した概念のことです。

町内に所在する多種多様な「 別海のおたから 」や、それらの周辺環境を含めた調査成果等を踏まえ、別海町らしさをあらわす歴史文化の特性を以下の7つに整理しました。

1．ネイチャー・ヒストリー～マンモスが闊歩した平たい大地と日本最大の砂嘴（さし）

別海の地は屈斜路・摩周火山の火山灰が繰り返し降り注いでできており、山がなく、石ころも出ない平たい「根釧台地」が広がっています。日本最大の砂嘴である野付半島には、タンチョウ、オオワシ、コクガン、カラフトルリシジミを始め、数多くの希少な野生生物が生息しています。また、町内にはヤチカンバなど貴重な植物が生息する数多くの湿原があります。

2．サーモン・ヒストリー～大切に受け継がれてきた持続可能な水産業

別海町の水産業は沿岸漁業が主体で、縄文時代から現在に至るまで、サケを中心とする豊かな水産資源が人々の生活の糧となりました。明治中期から乱獲によるサケ・マス資源の減少が見られたため、人工ふ化事業が本格的に行われるようになり、限られた漁業資源を大切に育て計画的に獲る持続可能な漁業を確立しました。

3．ミルク・ヒストリー～見棄てられかけた凶作の原野から乳流るる大地への甦（よみがえ）り

明治中期以降、海岸から内陸への開拓と入植が進められましたが、昭和 7(1932) 年の大霜害により農作物が壊滅状態となり、移住者たちは大変困難な状況に直面しました。その後、乳牛を主体とする主畜農業への転換が進み、戦後のパイロットファーム事業によって、生乳生産日本一への道を切り開きました。独特の牧場景観と格子状防風林が「酪農王国別海」の特徴となりました。

4．ロード・ヒストリー～生命（いのち）を繋いだ水・馬・鉄・車・空の路（みち）

広大な面積を誇る別海町の歴史は、人や物を運ぶための「路（みち）」の発展抜きには語ることができません。第一次産業を主とする別海町にとって、路は生活の糧を運ぶ生命（いのち）を繋ぐ路でした。江戸時代には国後島へ渡る「水の路」、明治期には「馬の路」、大正～昭和期には殖民軌道などの「鉄の道」が別海全体をカバーし、現在は「車の路」が張り巡らされています。

5．アイヌ・ヒストリー～『 加賀家文書 』が紐解く「 ペッカイェ 」の地

地名としての別海は、アイヌ語の「ペッ・カイェ」（川・折る）から来ており、町内のいたるところでアイヌ語地名をみることができます。アイヌ語通訳だった加賀伝蔵が書き残した『加賀家文書』は、当時のアイヌの生活を伝える第一級の貴重な史料群です。

6．ミリタリー・ヒストリー～広漠の地に築かれた北の護り

町内には陸上自衛隊の別海駐屯地と矢臼別演習場があり、国の防衛を担っています。「東洋一」といわれた陸軍省軍馬補充部根室支部や陸軍計根別飛行場が建設され、終戦後は大部分が農地となりましたが、掩体や格納庫などの跡が現在も残っています。

7．ローカル・ヒストリー～でっかい村の小さな集落に生きる人々の記憶とくらし

別海町は、一つの県にも匹敵するほどの広大な土地に、集落が点在しています。昭和 38(1963) 年の時点で別海村の小学校の数は 38 もありましたが、大規模な酪農に移行する中で統廃合が進み、その痕跡が失われつつあります。統合先の学校に残る学校沿革誌は、地域の歴史を伝えています。

べつせかい遺産と文化財保存活用区域

■べつせかい遺産の目的と考え方

「 べつせかい遺産 」とは、指定・未指定にかかわらず、地域の多種多様な「 別海のおたから 」を、歴史文化の特性に基づくテーマやストーリーによって、一定のまとまりとして捉える考え方です。「 別海のおたから 」を単体としてではなく、一体的に保存・活用することで、魅力を高めることができ、別海町の歴史文化の特性をより分かりやすく伝えることができます。これは「 別海 (べつかい)」という地名に、他にはない魅力あふれる場所を示す「 別世界 (べつせかい)」の意味を込めた造語になります。

■べつせかい遺産の設定

7つの歴史文化の特性をもとに、別海町を物語る2つのべつせかい遺産「 でっかい町が育んだでっかいおたから 」「 べつかいの海・川・大地が育んだサーモン&ミルク 」を設定し、一体的な保存・活用のための取り組みを実施します。

べつせかい遺産１　【でっかい町が育んだでっかいおたから】

広大な面積を誇る別海町には、規格外のスケールを持つおたからが数多くあります。

日本一の砂嘴である「野付半島」、東洋一の規模を誇った「軍馬補充部」、日本陸軍最大の飛行場「旧陸軍計根別飛行場」、日本一大きなチシマザクラである「野付の千島桜」、日本一の生乳生産量を生み出す広大な牧草地の景観（新酪農村展望台）、宇宙から視認できる唯一の人工の風景である「格子状防風林」などが代表例です。

幅 100 間 (約 182 m)、一辺最大 1,800 間 (約 3.27km)の正方形が碁盤の目状に整然と配置された格子状防風林は、空からの眺めが圧巻で、明治時代に設定された殖民地区画を現在にまで伝えてくれます。

べつせかい遺産２　【べつかいの海・川・大地が育んだサーモン&ミルク】

別海町では、縄文時代からアイヌ文化期を経て現在に至るまでサケを中心とする豊かな水産資源が人々の生活の糧となりました。西別川のサケは江戸幕府に献上された歴史を持ち、現在は「西別鮭」としてブランド化されています。

明治中期以降、海岸から内陸への開拓と入植が進められ、根釧原野農業開発５カ年計画、パイロットファーム事業、新酪農村建設事業により、酪農業の近代化と大規模化が進展しました。現在は生乳生産量日本一の町として全国にも知られています。

■文化財保存活用区域の目的と考え方

7つの歴史文化の特性（ 7つのヒストリー ）と2つの「 べつせかい遺産 」を中心としたストーリーに基づく「 別海のおたから 」が一定の区域に集積しているエリアを文化財保存活用区域として設定します。

■文化財保存活用区域の設定

歴史文化の特性4「 ロード･ヒストリー～生命（いのち）を繋いだ水･馬･鉄･車･空の路（みち） 」と、べつせかい遺産1「 でっかい町が育んだでっかいおたから 」を物語る中核エリアとなっている「 奥行地区 」を文化財保存活用区域として設定し、重点的に保存・活用に向けた取り組みを実施します。

「 奥行地区 」には、町内にある指定文化財 19 件のうち、5件が集中しており、史跡旧奥行臼駅逓所をはじめ、奥行臼駅や旧別海村営軌道停留所など、現在も多くの交通遺産が遺されています。

奥行地区は、北海道開拓における交通史の役割をトータルに学び・体験できる唯一の場所です。また、現在も国道 243・244 号、道道 930 号が交差する交通の要衝で、別海町の開拓史全体のストーリーの把握を容易にし、町民や来訪者が自ら歴史を体験し、学ぶことができる生涯学習の拠点となります。さらに、地域の歴史文化を語り伝えるだけでなく、地域住民の心の拠り所や憩いの場として地域コミュニティを支える役割も担っています。

「 別海のおたから 」の保存・活用に関する目標と課題・方針・措置

■「 別海のおたから 」の保存・活用に関する目標

郷土（ふるさと）に学び　人がつながり未来へつなぐ　まちを創る

■「 別海のおたから 」の保存・活用に関する課題・方針・措置

総合的な方針【学ぶ】

町民の参画を得ながら「別海のおたから」に関する継続的な調査・研究を進め、その価値を明らかにするとともに、調査成果を積極的に公開・発信します。

【課題】

（１）－①「別海のおたから」の調査・研究が不十分

（１）－② 調査成果等の町民への周知が不十分

【方針】

（１）－①「別海のおたから」の調査・研究を推進する

（１）－② 調査成果等を積極的に公開・発信する

【措置の例】

1　別海町歴史文化遺産認定事業

「別海のおたから」リストを更新し、未指定文化財を把握するための調査を継続して実施します。

17 別海町内湿原の観察会・講演会

湿原の保存団体が主催する観察会や講演会について共催などの形で行政がサポートし町民の理解・関心を深めます。

総合的な方針【つなぐ】

町民や行政、関係団体等の連携を強化し、地域ぐるみで「別海のおたから」の保存・活用を担う人材を育成することで、貴重な「別海のおたから」を確実に未来へ継承します。

【課題】

（２）－① 町民と行政の連携が不十分

（２）－②「別海のおたから」の地域ぐるみでの保存・活用が不十分

【方針】

（２）－①「別海のおたから」の担い手を育て、推進体制を構築する

（２）－②「別海のおたから」を適切に保存管理し次世代へ継承する

【措置の例】

23　天然記念物西別湿原ヤチカンバ群落保存整備事業

保存のための調査・モニタリングを継続して行い、抜本的な保存事業を実施するとともに、保存団体と協働して公開活用を図ります。また、個別の「保存活用計画」を作成します。

総合的な方針【創る】

「別海のおたから」の保存・活用を推進するための拠点を整備し、町民と来訪者の交流を促しながら、文化財の活用を通じた地域の魅力創造と新たな「別海のおたから」の継承体制を生み出します。

【課題】

（３）－① 拠点施設が老朽化し、保存団体が高齢化している

（３）－② 地域の魅力発信が不十分

（３）－③ 広域連携による新たな文化財継承体制が不十分

【方針】

（３）－① 保存・活用の拠点を整備する

（３）－② 地域の魅力を発信するための手法と体制を整備する

（３）－③ 広域連携に基づく新たな文化財継承体制を整備する

【措置の例】

29　郷土資料館の整備

老朽化した郷土資料館・豊原分館の整備方針を策定し、計画的な整備を進めます。附属施設加賀家文書館については計画的な改修を行います。

■【 べつせかい遺産２ 】の保存・活用に関する課題・方針・措置

べつせかい遺産１・2と文化財保存活用区域（ 奥行地区 ）のうち、本書では【 べつせかい遺産２ 】「 べつかいの海・川・大地が育んだサーモン&ミルク 」に関する課題・方針・措置を取り上げます。

【課題】

・独特な漁法、地域特有の加工法、施設などの記録整理が十分に実施できていない。
・水産業に関連する「別海のおたから」を活用した体験型観光プログラムが未整備。
・建物の一部が現存している「旧開拓使別海缶詰所」を十分に活用できていない。
・昔ながらの畜舎やサイロなどが放棄され、解体の危機にさらされている。

【方針】

・漁の様子や水産物の加工技術など、水産業に関する映像記録を作成する。
・日本遺産『鮭の聖地』の事業と連携し、漁体験などのプログラム開発を進める。
・「旧開拓使別海缶詰所」を別海の水産業の歴史などを伝える拠点として活用する。
・酪農に関する古い建造物や農機具類の残存状況を把握し、記録保存を推進する。

【主な措置】

水産関連の施設・漁法・加工法等の調査とデジタルアーカイブ化
町内に残る水産・漁業関連の施設等の情報を収集し、伝統的な漁法や加工法の映像記録を作成するなどしてデジタルアーカイブを構築します。

酪農関連の建造物・道具類の調査
町内に残る古い畜舎やサイロなどの建造物および農機具類の現状を把握し、記録保存を行います。

「 別海のおたから 」の保存・活用の推進体制

別海町では、教育委員会の郷土資料館（ 文化財担当 ）が中心となり、右表に示す体制によって町内の「 別海のおたから 」に関する保存・活用を実施しています。町の関係課や教育機関との連携を図り、文化財保護審議会や民間団体、近隣自治体や北海道とも連携・協力しながら「 別海のおたから 」の保存・活用を推進する体制を構築します。

町民	別海町民
行政	別海町の文化財所管課、庁内関係各課など
研究機関	郷土資料館、地域の学識者、大学など
教育機関	小学校、中学校、高等学校、公民館など
民間団体	各種の保存会、協議会、NPO、民間企業など
所有者	文化財の所有者及び管理者
連携先	近隣自治体、関連団体、SNS つながりなど

別海町文化財保存活用地域計画【概要版】
令和 6 (2024) 年 7 月　　認定
令和 6 (2024) 年 10 月　発行
発行・編集：別海町教育委員会　郷土資料館
〒 086-0205　北海道野付郡別海町別海宮舞町 30 番地　TEL：0153-75-0802